

減量住宅 in 水戸

分野：ボランティア、課外活動、地域交流

代表者：人文社会科学部現代社会学科 2年 小川 文太

連携先

千住 Public Network EAST

飯名 悠生 様

菊地建築工業

菊地 政也 様

アトリエ結

宇佐美 理絵 様

水戸市市民協働部防災・危機管理課

北井 文規 様

(人文学部社会科学科 3年)

岡部 智里

(理学部理学科)

沢 栞里

(人文学部人文コミュニケーション学科)

顧問教員

小原 規宏 (人文社会科学部 准教授)

参加者

小川 文太

(人文社会科学部現代社会学科 2年)

佐藤 綺音

(人文社会科学部法律経済学科 2年)

長谷部 拓斗

(人文社会科学部法律経済学科 1年)

谷田 和弥

(農学部地域総合農学科 1年)

阿部 光太郎

(農学部地域総合農学科 1年)

清水 梨々花

(農学部食生命農学科 1年)

蒲生 未佳

(教育学部養護教諭養成課程 1年)

前田 和花奈

(人文社会科学部人間文化学科 1年)

勝村 みらい

プロジェクトの概要

●私たちのテーマ

減量住宅とは、住宅の中の不便さ・使いにくさを「脂肪」ととらえ、それらの問題箇所を利用者が改修ないし手直しするような施工「減量」を行っていき、空き家の活用を目指す手法である。家の持ち主と使い手が一体となってひとつの物件のリノベーションに取り組むという過程の中で、現状空き家となっている住宅を、双方の理想像である「理想体型」に近づけていく。

これにより、空き家とそれを取り巻く環境の抱える問題点である「脂肪」を減らすプロジェクトだ。地域課題となっている空き家を活用すべく、家屋を解体しながら、生活空間を再生していく。その過程において、暮らしながら／使いながら活用方法を考えるという「減量住宅」の手法を茨城大学生が自分たちの手で実践する。

減量住宅 in 水戸はこうした活動を重ねてゆき、空き家の価値を発掘し、同時に地域交流の場を創出していきたいと考えている。

●私たちの描く「理想体型」

今日、数多くの地域において空き家問題が深刻なテーマとなっている。景観を損ね、防犯上のリスクを高める空き家は、地域にとっての不安要素として、いまだ打開策を確立できず、その数は今後も増加していくばかりだろう。社会全体にとって、いくつもの負の影響をもたらしている空き家問題に対し、画期的な一手を投じることのできない現状を、私たちは「脂肪」と捉えている。

そうした背景がある今日、このプロジェクトを成功させることができれば、ひとつの空き家対策における新たな手法を確立することができるのではないか。そう考える私たちは、社会の「脂肪」である空き家を対象とするプロジェクトを進め、リアルタイムで一連の流れを全国へ情報発信していく。これによって、モデルが横展開され、様々な場所において空き家問題の解決に向けた動きが活性化されるひとつのきっかけを作り出すことが、私たち減量住宅 in 水戸の最終的な狙いであり、いわば「理想体型」である。

●事業プロセス

当プロジェクトにおいては、空き家の改修作業ならびに利活用を進めていく中で、物件の抱える「脂肪」という老朽箇所を「減量」することもあれば、「燃焼」し「筋肉」として修復することもある。空き家の長所短所を可変的に改修し、理想体型（「脱空き家」）を目指していくというのが、減量住宅というアプローチの本質的な部分であるからだ。

減量住宅 in 水戸では、3年間の計画のもと、茨城大学水戸キャンパス周辺の空き家に対象エリアを絞ってプロジェクトを進めていく。具体的なプロジェクト進行の流れ

ならびに年度目標については、下記の通りである。

—1年目・2018年度目標—

- ・減量住宅を手掛ける飯名氏をはじめ、地域の第一線で活躍しているプロを交えた、プロジェクトチームを結成する。
- ・水戸市内の空き家を調査し、修繕に適した物件を借りる。

—2年目・2019年度目標—

- ・チームで利用方法を相談しながら、空き家の老朽化した部分は減築し、活用できる部分は改修していく。
- ・活用の方向性は、「料理」「体験」「交流」として、最適な改修を行っていく。
- ・住宅の改修中は、壁塗りや床張りの作業を、体験イベントとして実施する。オープン前から、多くの人に関わってもらうことで、利活用を進めていく家に対する愛着を持ってもらう。

—3年目・2020年度目標—

- ・完成時には料理体験教室を近隣の小学生とその家族を招待して開催する。
- ・一定期間のテスト期間を経て、有効な利活用の方法を考案し、大家さんに住宅を返還することをもって、減量住宅 in 水戸プロジェクトを終了とする。

●活動の足跡

今年度、減量住宅 in 水戸として以下のような活動を行った。

- ・千住 Public Network EAST 飯名悠生様による減量住宅運営方法に関する講演会

平成 31 年 2 月 9 日 (土) 18:00~20:00



「減量住宅」という空き家へのアプローチの発案者、千住 Public Network の飯名悠生様。この日、空き家活用についての講演会を主催すると聞き、北千住で開催された「千住でうごく」というイベントに参加した。

北千住エリアでの活動を題材に、減量住宅として空き家を活用するとはどういうことなのか、先行事例を学び、その思いを再確認すべく減量住宅 in 水戸のメンバーで出席した。空き家リノベーションならではの難しさを認識する一方で、多くの事例がこれまで成立していることから、空き家から広がるアイデアの多様さを強く印象付けられ、大変有意義な一日となった。

- ・株式会社一円 坂本健介様を招いての
減量住宅 PR 手法に関する戦略会議
平成 31 年 2 月 7 日 (木) 18:00~20:00
平成 31 年 2 月 14 日 (木) 18:00~20:00



茨城県土浦市のデザイン企業、株式会社一円から坂本健介様にお越しいただき、減量住宅 in 水戸の PR 手法についての戦略会議を行った。坂本様にはプロジェクトの期間前半から本プロジェクトのチラシの作成に関してご協力をいただいていた。(上記のチラシは坂本様と作成したもの。) 坂本様は数あるデザイナーの中でも、ロゴやデザインをもって企業・ビジネスの「価値」をカタチにする、その魅力を伝えることにおいては右に出る者のいないデザイナーと言われている。

数々の企業と仕事を進めた経歴があり、その一つひとつのプランや商品、サービスの「価値観」を凝縮させ、その価値をカタチにしてきた坂本様にご協力いただいたことで、チラシ作成にこめた思いを学生メンバーと共有するとともに、私たち減量住宅 in 水戸はいかにして PR をし、プロジェクトを進めてゆくべきか、とても熱量の高い会議を持つことができた。

- ・菊地建築工業 菊地政也様による
住宅改修に関する講習会
平成 31 年 2 月 14 日 (水) 13:00~15:00

平成 31 年 2 月 20 日 (水) 18:00~20:00



茨城県常陸太田市を中心に、ひろく建築家としてご活躍されている菊地政也様にご指導いただき、工具の使用法やその際の注意事項についての講習会を実施した。

私たちプロジェクトメンバーは建築を専門分野としているわけではないこともあり、本プロジェクトで初めて本格的な工具を扱うという学生も少なくない。安全にプロジェクトを進めていくためにも、実際の施工開始に先立ち工具の使い方を学んだ。直接プロから現場の中での場面を踏まえたお話を伺い、その後、実際に工具を使って木材を切断したことで、正しく安全な工具の使用法を学び実践することができたと感じている。

上記 3 つの活動の他にも、

- ・茨城大学周辺の空き家視察
 - ・法務局での登記事項の参照
 - ・羽ばたく！茨大生などイベントにてプロジェクトの PR 活動
- などを実施した。

プロジェクトの成果報告

2018 年度より開始した当プロジェクトでは、現在、先述した工程のうち項目 3 つ目の「空き家の利活用のプランニング」から

本格的に空き家に手を入れる活動に移ろうというタイミングである。2019 年度において最も重要な活動は、「減量対象」とする空き家を今年度前半において決定することだ。登記事項参照から空き家オーナーへの声掛け・情報提供や、茨城大学周辺のエリアを取り扱う不動産店への協力依頼を積極的に行っていく、住宅の決定を達成したい。その後、改修プラン策定や実際の施工の段階に本格的にシフトし、空き家オーナー・プロジェクト参加者の双方にとっての「理想体型」の実現につなげていきたいと考えている。